11/24 赤旗

ひと

白衣を再び戦場の血で汚さない県医療従事者の会代表

高見百代（たかみもも）さん（37）

「正義感が強くて、おせっかいです」。大津赤十字病院労働組合の職場新聞「ひとみ」（日刊）の早朝配布を自ら進んで手伝い始めたのをきっかけに、活動に参加するようになりました。

今年、生まれて初めてメーデーに参加。8月には原水爆禁止世界大会（広島）に組合から派遣されました。

「大津赤十字病院で働きたいと思ったのは、『人道・博愛』の赤十字精神に魅せられたからです。でも、戦時中、軍の病院に転用されたことや、日本赤十字社が武力攻撃事態法の指定公共機関となっていることを聞き、衝撃を受けました」。推されて「会」の代表に。

「安全保障関連法案（戦争法案）に反対し、廃棄を政府に求める」要請署名を集め、三日月大造滋賀県知事（日本赤十字社県支部長）に提出しました。

「看護師になったのは手に職を付けたかったから。本当は哲学を学びたかった」。20歳の時、祖母に成人式の振り袖を買ってもらう替わりに、1週間イギリスに語学留学しました。最初に就職した病院は1年足らずで退職。「レストランで皿洗いのアルバイトをしながら、（映画の）寅さんみたいにヨーロッパを2年半旅しました」。現在は、バレエスクールに通い、人生を楽しんでいます。

歴史に学んだことが力になっています。「看護は平和が前提です。『赤紙』1枚で召集され、従軍看護婦として戦争に協力させられないために、戦争法は絶対に廃止したい」

文・写真　浜田　正則